

若手女性社長が稲作大型機械を駆使し展開する効率的な経営が注目

株式会社アグリたきもと

※2016年3月現在

代表者名	海道 瑞穂	資本金	3百万円
設立年	2010年3月4日	売上高	57百万円(2015年2月期)
事業内容	生産(稲作)、消費者直売、 作業受託	経営規模	田77ha、施設440㎡
従事者数	6人(うち女性3人。女性内訳:役員2人、常勤パート1人)		
女性活躍	[女性に配慮して取組んでいる制度] 休暇(介護)		
支援	[女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(休憩室・屋内トイレの設置)、重労働等の業務改善		



経営概況

(株)アグリたきもとは、富山県入善町の農業法人であり、稲作の他、ダイズ、ネギ、地元特産のスイカなども生産している。現社長・海道瑞穂氏の父・瀧本敏氏は元々兼業農家であったが、脱サラして専業農家となり、その後、瑞穂氏を社長とする組織として、2010年に法人化した。

経営規模については、自社で所有する農地面積は1.8haに過ぎないが、敏氏の就農以降、地域の農家から受託した農地が年々拡大し、法人化時点で23ha、2015年時点では77haの農地で大規模に事業展開するまでになった。



1. 家族農家から発展した法人の若手女性経営者への継承、その強み

姉と妹に囲まれて育った瑞穂氏にとって、元々女性の発言が軽視されるような家族環境にはなかったという。法人化をきっかけに瑞穂氏が代表を務めることになり、農業生産全般を瑞穂氏が指揮をとるようになった。

また、敏氏も引き続き取締役として経営に関する業務全般を担当し、瑞穂氏の両親と妹、さらには瑞穂氏の夫も加わり、家族皆が協力して事業に取り組んでいる。

敏氏の「農業に女性は必要」という信念のもと、皆で積極的に瑞穂氏を支援している。

また、瑞穂氏に経営者としての自覚を醸成させるような環境作りも、早い段階で意識的に行ってきた。たとえば、町特産でブランド化された農産物である「入善ジャンボ西瓜」の出荷に際しては、添付必須の「下げ札(生産者の顔写真と名前を入れたもの)」に瑞穂氏の姿を入れることを、法人化以前から行ってきた。

2. 女性役員の活躍と地域農業における意義

女性である瑞穂氏が、20代と若くして社長に就任したこと自体が、地域の農業および同社への関心を高める要素となっている。

女性が法人の代表を務めるだけでなく、農業の現場で大型農業機械を駆使しながら熱心に農作業に取り組む姿をみせたことで、地域内で注目を浴びるようになった。

その結果、より多くの人々から広い面積の農地の管理を委託されるようになり、地域農業の担い手として、大きな期待を寄せられている。それらの人脈が広がって、若いスタッフの雇用に繋がっている。

さらに、各種メディアで取り上げられたり、講演の機会が増えたりする効果もあり、若い女性が代表を務め、広告塔としての役割を果たすことの宣伝効果は計り知れない。

また瑞穂氏の母であるみどり氏も同社の役員を務め、主に事務作業の全般と水田の水管理について担当しながら、瑞穂氏を強力にバックアップしている。

3. 女性が働きやすい環境の整備

産休・育休についてはまだ制度として未整備であるが、作業現場の改善については、たとえば現場への水洗トイレ設置を通じて女性のストレス減少に繋げるなど、女性陣の声を大きく反映させている。

大型特殊免許やフォークリフト免許の取得により、体力的に負担の大きかった米袋などの重量物の運搬作業を軽減・効率化し、さらにライスセンターの建設により、乾燥調整作業にかかる重労働の軽減に繋がった。

そのほか、デザイン系の専門学校で学んだ瑞穂氏のセンスで、現場作業における女性陣のモチベ

ーションを高める工夫も随所に施されている。その工夫とはたとえば、農業施設の内装にピンク色を採用したり、作業所の2階にある倉庫を改装して多目的スペースを開設したりするなどである。

農業の現場では力仕事だけではなく、水管理などの細かく緻密な仕事もあり、根気が必要な作業は特に、相対的に女性が秀でているという認識がなされている。

農業機械を丁寧に扱う点においても、総じて女性の方が優れている点が評価されている。

同社の場合、規模拡大に合わせて農業機械の積極的な導入や施設投資を進めることで作業の効率化を図る方針をとっており、高額な諸設備の耐用年数を伸ばすという点でも、女性の活用は不可欠である。

審査委員の声

「水稲作は男性中心の現場」という固定概念を見事に覆された。ここでは、女社長である瑞穂氏が大型トラクターに乗って颯爽と、現場の中心となって米を作っている。ご本人は「できるからやっているだけ」と自然体。目が覚める思いがした。

サポートするのは、実質的な経営者である父親の敏氏。女性が現場で働きやすいようにこまごまと配慮をしている。このサポートがあつての女性の活躍である。

今後は、社長である瑞穂氏が名実ともに経営者へと成長されることを期待したい。